

化に向けて」をテーマにパネル討論を開いた。自治会関係者らが、地蔵盆の課題や重要性を熱く語り合った。地蔵盆は市が「京都をつなぐ無形文化遺産

のないうちでも地域交流の場として行われている例や、新興住宅地が多い区南部は地蔵盆の開始時期が1965年以降に集中している特徴が分かった。パネル討論では、安



ワークショップに参加し、米国の学生たち（京都）

京都府立植物園で撮影した花や昆虫などの写真の作品展が、下京区四條通烏丸角の佛教大四

京都府立植物園で撮影した花や昆虫などの写真の作品展が、下京区四條通烏丸角の佛教大四

京都府立植物園で撮影した花や昆虫などの写真の作品展が、下京区四條通烏丸角の佛教大四

全盲の加留学生 日本語習得励む

全盲のカナダ人男子留学生が、京都市右京区の京都外国語大で日本語の習得に励んでいる。大学は年間150人前後の留学生を受け入れているが、全盲の学生は初めて。留学生はスタッフや大学院生の手厚い支援で日本語が上達し、「将来は日本で働きたい」と夢を膨らませている。

「将来は英語の先生に」

ニアル・ハートネットさん(21)。生まれつき目が暗く、長年の夢がかなわなかった。生まれてから大学まで、聴覚で楽しむゲームに親しめる任天堂のゲームに親しむ。受け入れに当たり、嘱託んだことをきっかけに日本や京都に興味を持ち、留学したくなった」という。昨迷わないよう立体模型の大

の部

学地図を作るなどさまざまな支援策を考案。文字や図形を書いた紙を浮かび上がらせる特殊な紙やパソコンの音声読み上げソフトを用意し、日本語の学習をサポートした。

ハートネットさんは周囲の助けに依って熱心に勉強し、星新一の小説などを日本語で聞いて楽しめるようになった。北川さんは「1人暮らしで買い物も自分でこなし、全盲であることを感じさせない。持ち前のチャレンジ精神で留学生生活を送れている」と評価



パソコンから音声を聞き、授業の予習や復習をするニアルさん(中央)とサポートする大学院生(京都府右京区・京都外国語大)

京都外大の手厚い支援奏功

バナナ似 バショウ開花 左京のレストラン



通常は真夏にややく早く開花するバナナ。左京区吉田牛、

バナナをつくり出す花を付けた。ペリバナのような花は、最近京でフライング気盛みられる。バショウは中

